



愛知東邦大学  
AICHI TOHO UNIVERSITY

# Toho

東 邦 キ ャ ン パ ス

# Campus

vol.142

2025年(令和7年)7月 発行

発行 学校法人 東邦学園 〒465-8515名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地 TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

HP [東邦学園](#) [愛知東邦大学](#) [東邦高等学校](#)

## 世界と つながる

目次

「グローバル化」「国際交流」「SDGs」「インバウンド」「海外進出」——こんな言葉を聞かない日がないくらいさまざまな面で世界とつながっている現代の日本。そんな現代にあって、地域に根差しながら世界に羽ばたく「グローバル」な人材の育成に、東邦学園では積極的に取り組んでいます。この面には、学園が「世界とつながった」さまざまな場面を散りばめています。

# 世界とつながる 留学座談会

「世界とつながる」——本学が大切にしてきたこの理念を体現する場として、5月26日にスチューデント・コモンズで「留学経験者と留学希望者による座談会」を開催しました。

今回は「世界とつながる」をテーマに、すでに海外留学や国際ボランティア、インターンシップなどを経験した卒業生2人と、今後留学を計画している現役学生4人に集まっていただき、それぞれの動機、体験、そしてそこから得た学びを率直に語っていただきました。

留学によって得たものとは何か。語学力、異文化理解、自己成長、そして視野の広がり——それぞれの経験を通じて、まさに「世界とつながる」ことの意味を具体的に浮き彫りにした90分でした。学生たちの本音が飛び交ったこの座談会の模様を、ダイジェストでお届けします。



## 出席者(敬称略)

**伊佐治 龍**(21年経営学部卒)…

カナダのトロントILACに半期語学留学(10か月)、フィリピン・セブ島でボランティア、ベトナムでインターンシップ

**藤崎 朱音**(21年経営学部卒)…

カンボジアで日本語ボランティア、ニュージーランドにファームステイ、フィリピン・セブ島でボランティア、ベトナムでインターンシップ、アイルランドの国立コーク大学に半期語学留学

**岡部 亜海**(人間健康学部4年)…

後期よりラプラプセブ国際大学(LCIC)へ語学留学：一昨年の海外研修BのLA研修に参加

**加藤 佑琉**(経営学部4年)…

本年9月より中国浙江省の大学へ半期語学留学を計画：昨年の海外研修B上海インターン参加

**廣野 元基**(経営学部3年)…飛び入り。留学検討中

**陳 雲潼**(経営学部3年)…飛び入り。留学検討中

司会は地域・国際交流課 **安井 文康**

**安井** まず留学経験の卒業生から、現在のお仕事と、留学経験がどう生かされているかを話してください。

**伊佐治** 自動車関係の商社で営業をしています。普段英語を使う機会はありません。留学で培ったこと、誰とでも話をする事ができるとか、しっかりと意見交換するなど、精神的な面は生かされていると思います。私生活の面では、海外の友達もでき、遊びに行ったりとか、英語も学んで、そんなところが今の生活に生きてるかな、と思います。

**藤崎** 空港で手荷物とかの保安検査員をしてい

ます。国際線担当なので、英語はめちゃくちゃ話します。クレーム対応もあるし。対応力は上がったのかなと思います。

**安井** ではこれから留学に行く人は、なぜ留学を決めたか、または考えているかの理由をお聞かせください。座談会を聞きたいと言ってきた「飛び入り」の2人にも尋ねます。



藤崎 朱音さん



**岡部** もともと海外が好きです。昨年、海外研修の授業でLAに行った時、アメリカ人と知り合って、もっと語学力を付けてその人の会社でインターンができればいいなと考えるようになりました。

**加藤** 留学に将来的なことは求めています。今の生活に変化がほしいなと思っているので、新しいところに行っているいろんなことが学べたらいいな、とは思っています。

**廣野** さまざまな国籍を持つ生徒が多い高校に通って海外に興味を持ちました。今は留学で視野を広げたいと思っています。将来は起業を考えていて、留学することで、もっといいアイデアが出そうだなと思っています。

**陳** 人生をもっと豊かにしたい、視野を広げたいと留学を考えています。僕は中国籍なので、



陳 雲潼さん

今でも留学みたいなものだし。ただ、英語の力が身に付いたりすれば、いい就職ができるかなとは思っています。

**安井** 留学経験のある二人に聞きます。日本でその国の言語を学び準備して行ったけど、最初は言葉が聞き取れないとかア

ウトプットが思ったほどに上手く出来なくて、部屋に閉じこもったりしなかったですか？どれぐらいで慣れましたか？

**藤崎** 私は閉じこもっていました。3か月ぐらいで耳は慣れて聞き取れるようになりましたけど。分からない言葉はメモを取って、その後に日記に書いて覚えました、英語で。その後、その言葉をインスタとかで使うようにしていました。

**伊佐治** なまった英語は2か月ぐらい聞き取れず苦戦しました。スラングは意味が分からないままにせず、その場で聞くか、後で聞いたこともありました。会話が上達するとすぐ返せるし、習得もさらに速くなる感じです。

**廣野** 会話が全然ダメなので、留学する前にどんな勉強した方がいいのか、まずTOEICとか

ビジネス会話とかやった方がいいのか、教えてください。

**藤崎** TOEICより日常会話ですよ。海外と会話できるアプリもいいですよ。

**廣野** 日常会話はどうしたらいいですか？

**安井** 伊佐治君や藤崎さんの頃はなかったけど、今は学内にESSサークルも活動しています。「CALL(コール)=The Culture and Language Lounge」もあるし、提携校からの要請でペンパ



廣野 元基さん

ル(文通)も募集しています。外国語学校と協力して、英語と中国語と日本語の異文化のグループを作ろうとしています。いろいろとやっているから、どんどん利用してください。

**伊佐治** 英語を学びたいのでPIA(現在の「CALL」)に行きました。TOEIC250点だったけど、英語を学びたい、でも分からない。だから最初は先生に迷惑かけてもいいかな、なんて無茶な考えで行っていました。TOEICなんて関係ないと思う。今の英語力というより、行きたいかどうかの方が大事で、行けば何とかなると思います。

**藤崎** 私も行けばなんとかなると思います。ノリでいけますね。現地で染まります。

**安井** 留学で友達はできましたか？昨年加藤君と私は一緒に海外研修で中国に行きました。普段日本にいる加藤君はとても口数が少なくおとなしいイメージであったけど、海外では全然

違ってすごく積極的になってましたよね。何があなたをそうさせたのかな？

**加藤** 純粹に友達になれたから、おかげでいまは中国も韓国も友達が多くなりました。友達になったら、どんな国でもその国に対してとても



加藤 佑琉さん

興味がわくと思います。

**藤崎** 私が行ったアイルランドのコーク大学ではスペイン、インド、アメリカ、フランス、中国と多国籍で、日本人は私だけでした。10人ぐらい友だちができました。

**伊佐治** カナダのトロントは10数人のクラスで多国籍だったので、いろいろな国の人と仲良くなれました。第2言語で英語を話す人たちが多くて、その点で話が合って、文化が交じり合うって感じですかね。肉を食べない人(ビーガン)もいたし、そういう人がいるって実体験してよかった。街ではヘイトされたこともありましたが、平気だったけど。その頃の友だちとは今も仲がいいですよ。

**安井** 「世界とつながる」とは何をやったらつながるのかな？それ以外に留学に関して言い足りないことがあれば、何でもいいです。

**藤崎** つながるとは、行動に移すこと。日本にいてもできるけど、現地に行った方が日本の良さを知れるいい機会になると思います。日本のことを知らずに恥をかいたこともありましたが、日本の良さとか育った環境をきちんと説明できるということは大切だと思いました。

**伊佐治** 今はSNSでも世界の情勢は見られるけど、留学というのは人とつながるということ。海外のニュースは一部でしかないし、自分で経

験するとこれまでよく言われてたことと全然違うことも多い。積極的にコミュニケーションを取って自分で知る。海外で出会う人とさりげない一言を交わすだけでも良い経験になる。向こうに行ったら相手にとって、自分が日本の代表なので、自覚を持って行動すれば良さも伝わるし、日本のことも学ぼうとするだろうし、深い理解ができて、お互いのコミュニケーションが強まっていくと感じました。

**岡部** 昨年の海外研修Bでアメリカロサンゼルスに行きました。やはり現地に行くことで様々な経験を体感することが出来ました。行きたいと思ったらとにかく行って経験することが一番かなと思いました。

**藤崎** 日本と外国との良くも悪くもギャップが楽しい。日本にいと当たり前になっちゃうんですが、海外では「えっ」ということも多いし、それを楽しみつつ、いろいろな国に行ってみたいです。

**伊佐治** 好奇心って大事だよ。海外に行っている人と行ってない人とは、いろいろな角度で物事が見えるので、世界の出来事に対する発言も全然違う。旅行もいいけど、その国で暮らすことが必要なんではないですか。

**安井** ありがとうございます。



伊佐治 龍さん



岡部 亜海さん

「まず動いてみる」「自分の目で見て、耳で聞き、感じる」ことが、世界とつながる第一歩だという言葉が強く印象に残りました。SNSやネット情報があふれる今だからこそ、実体験としての海外滞在が持つ意味は大きく、そこから得られる気づきや成長はかけがえのないものだと感じました。「海外での出会いが、今も自分の支えになっている」「自分が日本の代表という意識で行動すると、自ずと相手を理解しようと努力するようになる」——そんな一言一言が、これから世界に飛び出そうとしている学生たちの背中を力強く押したと思います。

留学に対する不安や経済的なハードルも、相談をよく受けるので分かっています。それでも一歩を踏み出した先にある豊かな経験が、参加者たちの言葉から伝わってきます。これからも本学は、多様な国際経験の機会を通じて、学生一人ひとりが「世界とつながる」実感を得られるよう、積極的に支援してまいります。

(地域・国際交流課 **安井 文康**)



サレジアンカレッジのプレゼンテーションの様子

## 4か国5校 姉妹校交流会

国際交流室長 伊藤 保憲

### 4か国5校姉妹校

東邦高等学校

南京外国語学校

シャーリー・ボーイズ・ハイスクール  
マリアン・カレッジ

サレジアン・カレッジ・サンベリー

日本 名古屋

中国 南京

ニュージーランド クライストチャーチ

ニュージーランド クライストチャーチ

オーストラリア メルボルン郊外

「他国の生徒たちと関わることができ、友達にもなれ、一緒に学ぶことができた楽しい2週間でした」

「私がこれまで経験してきた文化とは異なることを多く体験し、それを多くの学びにつなげることができました」

「プレゼンテーションの準備は大変でしたし、ホスト校の代表としておもてなしをするのも簡単ではありませんでした。でも、だからこそ積極的にみんなに話しかけることができ、有意義な交流ができました。相手の文化や考え方を交えながら、絆を深めることができました」

これらは、4月21日から東邦高校を会場として開催された4か国5校による「姉妹校交流会」に参加した本校の生徒たちの感想の一部です。国際交流というと、楽しくキラキラしたイメージが先行しがちですが、真剣に向き合えば向き合うほど、文化や価値観の違いに直面し、戸惑い、悩み、苦しむこともあります。けれども、これらの感想からは、そうした困難を乗り越え、新たな気づきや学びを自らの力とし、明るい地球社会の未来を見据えようとする強い心を感じ取ることができました。

越え、新たな気づきや学びを自らの力とし、明るい地球社会の未来を見据えようとする強い心を感じ取ることができました。

「4か国5校姉妹校交流会」は、提携する中国・南京外国語学校、ニュージーランド・Shirley Boys High SchoolおよびMarian College、オーストラリア・Salesian College Sunburyから代表生徒6人と教員2人を招き、1997年から継続的に開催されています。今年度は本校が会場校となり、24人の高校生と7人の先生方をお迎えしました。(本校を代表する生徒6人に加え、合計30人の代表生徒による交流となりました)

この交流会が、通常の海外研修と大きく異なる点は、1国対1国ではなく、アジア・オセアニアの複数国の高校生が一堂に会し、英語学習が目的ではなく、特定のテーマに基づいたプレゼンテーションやディスカッションを通して意見を交わすプログラムであるということです。



つまり、英語はあくまで「手段」であり、交流の「目的」ではありません。

これまでのテーマには、「民俗芸能の保全」「世界のごみ問題」「多文化共生社会の実現」「語り継ぐ物語」などがありましたが、今年度のテーマは「オーバーツーリズム」でした。コロナ禍という長いトンネルを抜け、各国で観光客が戻ってきた今、観光地での住民との摩擦、宿泊施設や飲食店の不足、トイレやごみの問題など、観光が抱える課題について、持続可能なあり方を探るため、世界中の高校生たちと意見を交わしました。

4月21日の交流会初日、1年生全員が参加する歓迎と開会式を体育館で実施しました。司会は日本語・英語・中国語で進められ、マーチングバンド部とダンス部のパフォーマンスが会場を華やかに盛り上げました。

交流期間中は代表生徒同士によるプレゼンテーションやディスカッション、文化交流が中心でしたが、それだけでなく、本校の授業内や部活動においても多くの生徒との交流の機会が設けられました。さらに、代表生徒たちは名古屋観光のほか、京都(金閣寺・嵐山)と奈良(薬師寺・東大寺)への一泊旅行にも出かけました。この旅行では、まさに日本におけるオーバー



京都嵐山の渡月橋前で

ツーリズムの現状を実感することとなりました。修学旅行生や一般の日本人観光客に加え、海外からの観光客で観光地は混雑し、飲食店や宿泊施設はキャパシティを大きく超えていました。

2週間の交流の終盤には、「せっかく日本に来てもらったから、日本の文化を体験し、みんなで何かを一緒に作ろう」との思いから、東邦生が主体となって「ソーラン節」の共同パフォーマンスを企画・指導しました。練習を重ね、その成果を披露する場を設けました。この取り組みは、4月29日付の中日新聞にも掲載されました。

5月1日の閉会パフォーマンスには、2年生全クラスが参加しました。体育館で行われた会では、2週間の交流を振り返る各国代表生徒によるプレゼンテーションの後、それぞれの国の文化を紹介するパフォーマンスが披露されました。ニュージーランドの生徒たちは、先住民族の伝統であるHAKAやStick Game、中国の生徒たちは歌、オーストラリアの生徒たちはダンスを披露しました。そして会の最後には、本校生徒を含む4か国5校の代表生徒30人による「ソーラン節」で締めくくられ、2年生の皆さんから温かい拍手と声援をいただきました。海



1年生とともに開催した開会式

外の生徒たちも大変満足そうな表情を浮かべていました。翌日2日には閉会式が行われ、ホストファミリーをお招きしての別れとなりました。多くの参加者が涙を流し、名残を惜しみながら別れを告げました。

姉妹校交流会は、本校の国際交流の歴史において最も大切な位置を占める行事です。現在、世界は戦争、環境問題、人口増加、食料問題、移民、格差、貧困など、数多くの課題に直面しています。これらのグローバルな課題は、もはや一個人や一国だけで解決できるものではなく、国境や文化を越えて多くの人が意見を交わすことが不可欠です。これらは、現代を生きる私たちにとっても、未来社会を担う若者たちにとっても、他人事ではなく、自らの課題として考えなければならない問題です。こうした課題に対し、国や文化を越えて対等に議論できる力を持った若者を育てることこそが、私たちの責務です。その意味でも、この姉妹校交流会が果たしている役割は非常に大きいと考えています。

この交流会は、多くの方々の支えによって実現しています。特に、ホストファミリーとしてご協力いただいた皆様の存在なしには、2週間のプログラムを成り立たせることはできませんでした。楽しいことも多かったと思いますが、それ以上に戸惑いやご苦労もあったことと思



参加者みんなで集合写真

ます。それでも、すべての生徒が交流会への参加を心から喜び、たくさんの思い出とともに帰国いたしました。ホストファミリーの皆様に、心より御礼申し上げます。

次回の姉妹校交流会は、2026年4月にニュージーランドのShirley Boys High Schoolで開催される予定です。さらに2027年には、本校を会場に姉妹校交流会が30周年を迎えます。その歴史の重みをかみしめつつ、5校の絆をさらに深め、グローバルな課題に向き合い、解決に貢献できる人材の育成をめざした、より具体的かつ実りある交流を進めていきたいと考えています。



閉会パフォーマンスでの4か国生徒たちのソーラン節



# Ⅱ 高校／ニュース・トピックス

## 1 年学級合宿「東邦生の自覚を」

1 年生学年主任 後藤 洋輔

恒例の学級合宿を4月22日から24日にかけて、1泊2日で実施しました。生徒は1日出発をずらした前団(A～G組)と後団(H～N組)に分かれ、さらに前後団の中でも、愛知県西尾と三重県湯ノ山に宿泊地が分かれました。

合宿前に行われた校長講話では、東邦高校の歴史や卒業生の活躍などの話を通して、生徒たちは「自分が目指すべき理想像」を思い描き、それを自身に重ね合わせて考える機会となりました。学年としては、「東邦生としての自覚を持つこと」「クラスや学年の仲間との親睦を深めること」を合宿の目的として掲げていました。その目的の達成に向けて、生徒たちは“メリハリある行動”を意識しながら、集団行動の大切さを学び、実践してくれました。

合宿を通じて、生徒たちは他者と協力し、思いやりをもって関わる力を育んでいます。23日はあいにくの雨となりましたが、その中でも仲間と力を合わせて行動する姿からは、まさに本校が目指すべき生徒像が体現されていると感じました。



## 2 年遠足「仲間づくり」

2 年生学年主任 平岡 広子

小雨の4月23日、2年生の遠足が行われました。3つの行き先(妻籠・馬籠、竹島・竹島水族館、南知多ビーチランド)に分かれ、それぞれ見どころ満載の楽しい一日となりました。

遠足の目的の一つは、クラスでの仲間づくりです。バスの中での会話や散策中、昼食を通じて、お互いを知って交流が深まっていました。馬籠宿では古い宿場町の風情を感じ、竹島水族館では手で触れる生物に興味深々、解説ポップに温かみを感じました。南知多ビーチランドではイルカショーを最前列で見学した

際、イルカが跳ねた時の水しぶきで制服がびしょ濡れになる生徒もいました。

午後には雨もあがり、空も生徒の表情も明るくなったのが印象的でした。

## 3 年遠足「進路決定前のやすらぎ時間」

3 年生学年主任 吉山 奈緒子

3 年生は4月23日、嵯峨野・嵐山、伊勢神宮、彦根・長浜の3コースに分かれて遠足に行きました。朝から雨模様でしたが、16クラスが無事に出発できました。

私は彦根・長浜を訪れました。彦根のご当地キャラ「ひこにゃん」は姿を見せてくれず、生徒は残念がっていましたが、雨がやんだ一瞬を狙い、彦根城の近くでクラス揃って写真撮影ができました。卒業アルバムのページを飾る思い出の一枚になることでしょう。

バスで長浜へ移動。黒壁スクエア周辺をグループで自由散策し、ガラス工芸品やレトロな町並みを楽しみ、地域の魅力に触れることができました。午後には雨も上がり、青空も顔をのぞかせてくれました。

ほとんどの生徒にとっておそらく人生で最後になるであろう今回の遠足。明るい笑顔に溢れ、クラスメイトとも親睦を深め、楽しいひとときを過ごすことができたようです。生徒たちは今後、進路決定に向けて日々奮闘することになります。引き続き生徒たちの成長を温かく見守っていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。





# 大学／ニュース・トピックス

## 2024年度卒業生進路

学生・キャリア支援課 松井 慶太

2024年度は306人(9月卒業を含む)が愛知東邦大学を卒業し、社会に飛び出しました。ここ数年の新卒就活事情は「売り手市場」と呼ばれています。恵まれた環境の中、学生たちはそれぞれに頑張り、大学全体で99.3%の就職率(対就職希望者)となりました。2023年度の99.4%に続き、本学の歴史の中でも非常に高い数値です。また、進学者も7名となり、学びを継続する卒業生にもエールを送りたいです。

この記事を目にしてくれた在学生には、ぜひ先輩に続いて就職活動を頑張ってもらえたら嬉しいです。

私たちも支援していきますが、一つ注意点があります。みなさんにとって追い風の現状は、「内定取得」というゴールは確かに決まりやすい状況です。ただ「自分自身が納得のいく進路決定」というより高いゴールを設定するならば、大きな努力と成長が必要になります。ぜひ、このゴールに向けてチャレンジしましょう。

もう一つ数字を紹介します。2024年度の卒業生に対して、卒業前の12月にとったアンケートです。「進路決定先の満足度はどのくらいですか」という問いに対して「大変満足」45.2%、「満足」42.7%、合計87.9%が満足以上の回答でした。「どちらでもない」は10.1%で、「やや不満」2.0%、「不満」0.0%の回答でした。この結果は担当部署として、とても嬉しい結果でした。ぜひ在学生のみなさんにも、この満足感や達成感を感じて卒業式を迎えて欲しいです。一緒に頑張りましょう。

## 卒業生は在学中こう頑張った

最後にWebコンテンツの紹介です。進路が決定した卒業生に在学中の取り組みをインタビューした記事を発信しています。興味がある方はぜひQRコードから「TOHO Stories」にアクセスしてみてください。「就職活動」のタブを選択すると関連記事にアクセスできます。記事を読み、在学生一人ひとりが自分のキャリアを考えるきっかけになれば嬉しいです。



24年度卒業生たちの業界研究会の様子

## 新学生会が発足

今年度の学生会の執行部が5月27日に発足しました。2年生主体の執行部です。会長に選ばれたのは、経営学部地域ビジネス学科2年の池尾朋耀さんです。池尾会長は「1人がみんなのために行動できるチームを作りたい。そして僕の代で何か新しいものを作ることに挑戦したい」とチャレンジをアピールしました。

他のメンバーは次の通りです。



副会長＝江端光稀(経営学部2年)鈴木颯天(経営学部2年)▽会計＝榎野凌平(経営学部2年)杉江祥太郎(経営学部3年)▽書記＝此嶋祐貴(人間健康学部2年)飯尾皓太郎(人間健康学部2年)▽監査＝藤本日菜(人間健康学部4年)上瀬海琴(経営学部3年)

## Ⅱ 高校／クラブ活動

### 甲子園の交流試合で好投

軟式野球部顧問 北川 雄大

「高校軟式野球の魅力を広めたい」という思いから、5月5日に第1回「春の軟式交流試合in甲子園」が開催されました。全国から選抜された選手が東西に分かれて対戦する中、本校の氏原奏達君(3年)が愛知県代表として出場。西日本選抜の背番号1を背負い、憧れの甲子園で先発投手としてマウンドに立ち、全国の強打者を相手に無失点の好投を見せました。

また、応援に駆けつけた部員たちも、甲子園の雰囲気やレベルの高いプレーに大きな刺激を受け、仲間の活躍を間近に見て気持ちを新たにしました。この経験を糧に、夏の選手権大会では一戦一戦全力を尽くして戦います。引き続き、応援をよろしくお願いいたします。



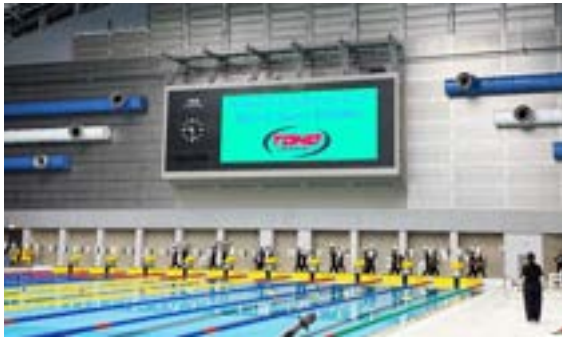
### 全国大会出場を目指して

男子ソフトテニス部顧問 若山 大樹  
小川 礼

男子ソフトテニス部は県大会優勝、そして全国大会への出場を目標として掲げ、日々練習に励んでおります。昨年度はその目標は達成できなかったものの、令和6年度新人戦の団体戦においてベスト8で出場できる愛知県選抜ソフトテニス大会において3位となることができました。これまで応援やご支援をいただいた皆様のお力添えによって、成し遂げることができました。心から感謝申し上げます。

保護者の方や卒業生など、多くの方々に支えていただいていることで、私たちはこれからも夢に向かって挑戦することができます。今後も皆さま方への感謝の気持ちと、「応援される人間」であること忘れず、精進を続けて参りますので、今後ともソフトテニス部をよろしくお願いいたします。





## 創部100周年迎える

水泳部顧問 山田 琴絵

水泳部は2025年に創部100周年を迎えました。この記念すべき節目を祝い、6月1日に東邦高等学校水泳部創部100周年記念sprint swim battlesを日本ガイシアリーナにて開催いたしました。

当日は、現役の部員はもちろん、多くのスイミングクラブや中学、高校など総勢600人を超える選手に参加いただき、たいへん意義深い1日となりました。また東邦マーチングバンド部にも会場にお越しいただき、大会を盛り上げていただきました。

本校水泳部は、長い歴史の中で多くの選手を輩出し、日々の練習を通じて競技力だけではなく人間力の向上を目指して活動してまいりました。100年という歩みの重みを胸に、次の100年に向けてさらなる飛躍を誓います。

長年にわたり水泳部を支えてくださった多くの卒業生、保護者、教職員の皆さまの温かいご支援・ご声援を、今後とも賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## アットホームに英語を楽しむ

ESS部顧問 Steven Allen

The English Speaking Society is a relaxed club for enjoying English through games, movies and casual conversation. ESS participates in exchanges when overseas students visit Toho, and members have taught origami, played karuta, and cooked together with students from around the world. Apart from these in-school activities, ESS members also regularly participate in speech contests, and a story-telling contest, where students perform children's stories in English. These experiences make the ESS club a place where students can gain valuable life experience in a fun and relaxed atmosphere.



### 〈和訳〉

English Speaking Society(ESS)は、英語でのゲームや映画、気軽なおしゃべりを通して英語を楽しむ、アットホームな雰囲気クラブです。

東邦に海外からの留学生が来た際には、ESSのメンバーが交流活動に参加し、折り紙を教えたり、かるたで遊んだり、一緒に料理をしたりと、世界中の学生たちと楽しい時間を過ごしています。

校内でのこうした活動に加えて、岐阜聖徳学園大学の「レシテーションコンテスト」や、桜花学園大学の英語で絵本を読み聞かせる「ストーリーテリングコンテスト」にも定期的に出場しています。また、去年はこれらに加えて、相山女学園大学の「レシテーションコンテスト」に部員全員が出場しました。これらの経験を通じて、ESSは英語力だけでなく、豊かな人生経験も得られる貴重な場となっています。

## Ⅱ 大学／クラブ活動

### 全日本大会、出場決める

軟式野球部キャプテン

人間健康学部3年 渥美 広太郎

軟式野球部は「全員で楽しんでやろう」を合言葉に、ゆるく野球に取り組んでいます。現在の部員は選手28人、マネージャー4人の計32人で、硬式・軟式の野球経験者は8割ほどです。毎週月曜日に日進グラウンドで



練習しています。それ以外の日の練習は個人に任せているので、バッティングセンターでバットを振ったりしていますが、守備練習はあまりできません。

普段から部室に集まっては、他愛もない話で盛り上がるほど仲の良い部活動です。一緒にご飯を食べたり、バンテリンドームに野球観戦に行くこともあります。上下関係を適切に保ちつつ、年齢差関係なしに楽しんでいます。

今年のチームは積極的に打っていくことを徹底して、練習を行っています。そのかいあって、中部日本地区の春季リーグで優勝し、全日本学生軟式野球大会(8月23日開幕、東京都八王子市)に出場が決まりました。2011年には全国制覇をした伝統あるチームですが、私自身、その歴史を知らずに入部しました。全日本大会でも、チーム一丸で楽しんできたいと思います。



### 無事故無違反をモットーに

東邦ツーリングサークル会長 経営学部3年 山本 虎徹

「東邦ツーリングサークル」は、今年度で活動2年目のできたばかりのサークルです。自分自身のオートバイでツーリングに行くことが主な活動で、無事故・無違反をモットーに日々活動しています。

活動状況を報告させていただきます。

3月に卒業ツーリングを実施しました。行き先は滋賀県の「カイザーベルクびわ湖」です。途中で予期せぬ渋滞に巻き込まれたりもしましたが、卒業する先輩方の門出を祝う楽しい食事会も行い、初年度の締めくくりにな

りました。ソロツーリングも楽しいですが、サークル活動では大勢で行くマスツーリングならではの面白さを楽しめます。

またバイク用品店のイベントに参加して鈴鹿サーキットでも走りました。ツーリングとは異なるバイクの楽しみを体験でき、これからも時々サーキット走行を楽しみたいと思っています。





## やるなら本気で、楽しむなら全力で！



FREE STYLE代表 人間健康学部3年 宮崎 こはる  
FREE STYLE(フリースタイル)は、“自分たちが楽しむこと”を第一に、そして“見に来てくれた人たちにも楽しんでもらうこと”をモットーに活動しているダンスサークルです。

振り付けや衣装決め、イベントの構成やMCまですべてを自分たちで考え、ゼロからつくり上げる完全DIYスタイル。だからこそ、ひとつひとつの作品にメンバー全員の思いが込められています。

メンバーの半分以上が大学からダンスを始めた初心者ですが、経験者のメンバーが基礎から丁寧に指導。練習を重ねるうちに、誰もが自信を持ってステージに立てるようになります。「自分にできるかな…」と不安だった人も、今では堂々とチームを引っ張る存在に成長しています。

FREE STYLEの魅力は、パフォーマンスだけではなく、学内外のさまざまなイベントに出演したり、サークル旅行などみんなで“とことん楽しむ”イベントも充実。学年や性別の垣根もないほど仲が良く、常に笑いがあふれる雰囲気の中で活動しています。これからも新しいことに挑戦しながら、もっとたくさんの人にワクワクを届けていきます。



ダンスが好きな人も、今から始めてみたい人も大歓迎！全員が主役になれる、最高のサークルと一緒に楽しみましょう！

## 将来に備え投資の知識

金融サークル会長 経営学部4年 今井 望

私たちの「金融サークル」は今年になってできたばかりです。

最近の経済状況を見ると、将来に対して漠然とした不安がありました。「このままで大丈夫かな」と考えていた時、所属していたゼミの手嶋慎介教授から「金融サークル」を立ち上げることを勧められました。資産運用や投資の知識を蓄えることは「将来使えるな」と思いました。

今のメンバーは、ゼミの仲間など5、6人です。まだまだ活動実績と言えるものではありませんが、週1回集まってチャートの分析や企業の財務状況などの研究を始めています。資産運用や投資の知識を基に、サークル内で様々な分析や情報交換が出来るようになりたいと思っています。秋には学生対象の「名証株式コンテスト」という投資競技会があり、そこに参加するための準備をしています。「投資」に興味のある学生も募集中です。





## 東邦高校の実話を 基にした映画 「80年後のあなたへ」 が公開

東邦高校の生徒会が出した要望書をきっかけに制定された5月14日の「なごや平和の日」。その実話のその後をオリジナルストーリーで描いた映画「80年後のあなたへ」が制作され、翌々日の16日、全国の映画館で公開されました。

映画は「平和の日は制定されたけど、これで終わりでもいいの?」と感じた「東商」高校の生徒会長、山川ひまり(俳優は渡邊このみ)を主人公に、「東商」高校の在校生やOB・OGなど7人の男女が主な登場人物の青春群像劇です。「戦後80年」という節目に、この先の未来に残したいものは何か、という問いに向き合ったひまりたち。名古屋市内の戦争遺構を巡るうちに、平和だからこそ、「残したいもの」が「残される」と気づき、平和を願いつつ、それぞれ新たな一歩を踏み出してゆくという作品です。

東邦高校もロケに協力し、正門わきの「平和の碑」は、主人公らが手を合わせるシーンなどで何度も登場します。美術科有志が制作した「平和祈願図屏風」も、「残したいもの」の一つとして出てきます。



平和の碑

### 「平和祈願図屏風」を祈念式典で展示

名古屋の過去・現在・未来を描いた「平和祈願図屏風」は、5月14日に名古屋市中区役所で行われた「なごや平和祈念式典」の会場で展示されました。



屏風の前に立つ映画の出演者、プロデューサーと榊理事長

大勢の参加者に交じって、名古屋市の広沢一郎市長や田中里佳市議会議長らも見入っていました。戦争と平和の資料館「ピースあいち」の宮原大輔館長は「東邦高校は何年も前に戦争の語り部を招いて生徒たちが創作する活動をしていて、われわれも協力してきました。『平和の日』制定は生徒会の表の活動の成果だが、そういった地道な取り組みが、この屏風に繋がったと思います」と長年の東邦高校の平和への活動をたたえていました。



本年度の学園人事構成は下記の通りです。

## ◆理事・監事・評議員

理事 長：榊 直樹  
 理事 事：鵜飼 裕之、藤本 紀子、船木 恵一、  
 齊藤 卓哉、大河 哲男、加藤 明彦、  
 中山 孝男、丹羽 哲也  
 監事 事：長沼 均俊、二村友佳子  
 評議員 員：尚 爾華、袴田 克彦、若山 大樹、  
 古田 知子、宮地 和徳、森川 早苗、  
 葛本 誠、杉山 英孝、岡部 年彦、  
 杉崎 正美、元松 茂、若林 努

## ◆法人事務局

法人事務局長：長沼 英樹  
 法人事務局次長：堀田 時弘  
 新たな百年事務局・広報室事務局長：長沼 英樹  
 内部監査室長・特命参与：細江 保司  
 スポーツ・文化振興局課長：貫名 正樹  
 スポーツ・文化振興局課長補佐：白谷 峰人

※以下大学役職兼ねる

総務課長：袴田 克彦  
 総務課施設担当課長：池田 暁生  
 経理課長：堀田 時弘  
 学術情報課長兼IR推進室：山田 智代

## ◆大学

学 長：鵜飼 裕之  
 副学 長：船木 恵一  
 学 長 補 佐：杉谷 正次  
 “ ”：新實 広記  
 経営学部長：田村 豊  
 経営学部長補佐：深谷 和広  
 ビジネス学科長：深谷 和広  
 コミュニケーション・デザイン学科長：谷口 正博  
 人間健康学部長：尚 爾華  
 人間健康学部長補佐：西尾 敦史  
 教育学部長：堀 建治  
 教育学部長補佐：水野 伸子  
 学術情報センター長：船木 恵一  
 地域・産学連携センター長：谷口 正博  
 教職支援センター長：鈴木 直政  
 保健・学生相談センター長：渡辺 弥生  
 キャリア支援センター長：手嶋 慎介  
 国際交流センター長：宮城 エステバン  
 教養教育センター長：西尾 敦史  
 地域創造研究所長：上條 憲二  
 入 試 委 員 長：宮本 佳範  
 教 務 委 員 長：三好 弥生  
 学 生 委 員 長：新實 広記  
 自己点検・評価委員長：堀 篤実  
 人 事 委 員 長：鵜飼 裕之  
 研究活動委員長：鵜飼 裕之

研究倫理委員長：伊藤恵美子  
 FD・SD委員長：三好 弥生  
 広 報 委 員 長：原 京二  
 IR推進委員長：吉村 美路  
 総 務 委 員 長：伊藤 数馬

## ◆大学事務局

事 務 長：藤井 玲子  
 事 務 次 長：袴田 克彦、富田 敦史  
 DX・研究担当課長：新村 健  
 入 試 広 報 課 長：三輪 哲也  
 入 試 広 報 課 長 補 佐：河合 厚志  
 教 務 課 長：富田 敦史  
 教 務 課 長 補 佐：久保 雄大  
 学生・キャリア支援課長：松井 慶太  
 学生・キャリア支援課学生支援担当課長兼  
 地域・国際交流課長：二宮加代子  
 地域国際交流課地域スポーツ担当課長：貫名 正樹

## ◆高等学校

校 長：藤本 紀子  
 教 頭：大上 雄示  
 “ ”：野崎久美子  
 校 務 部 長：志水 和史  
 教 務 部 長：宮田 賢二  
 生活指導部長：加藤 禎大  
 広報企画室長：小林 豪紀  
 進路指導主事：保坂 秀和  
 国際交流室長：伊藤 保憲  
 メディア情報センター長：山本 俊秋  
 保健指導主事：小嶋 大介  
 生徒会正顧問：古田 知子  
 学年主任第1学年：後藤 洋輔  
 学年主任第2学年：平岡 広子  
 学年主任第3学年：吉山奈緒子  
 学科主任美術科：小塚 康成  
 統括責任者文理特進：大岡亜希子  
 統括責任者人間健康：木下 達生  
 統括責任者世界探究：伊藤 保憲  
 教科主任 国語科：畑中 千佳  
 “ ” 社会科：畔野 友紀  
 “ ” 数学科：松瀬 光  
 “ ” 理 科：森嶋 悠人  
 “ ” 保健体育科：木下 達生  
 “ ” 芸術科：前橋 瞳  
 “ ” 英語科：加藤 強  
 “ ” 家庭科：田中 瑞穂  
 “ ” 情報科：内田 百花

## ◆高校事務部

事 務 部 長：平上 純一  
 事務部副部長(広報企画室担当)：阪口 将史  
 事務部副部長：貫名 正樹

## 2024年度の寄付金受け入れ状況

2024年度のご寄付は、皆様から総額45,816千円をいただきました。誠にありがとうございました。一般寄付(使途を限定しない寄付)、特別寄付(使途を限定した寄付)に分かれており、それぞれ寄付に込められた趣旨を十分踏まえつつ、大学と高校の教育活動支援に充てさせていただきました。内訳についてご説明申し上げます。

### ◆学園に対する寄付について(705千円)

学校法人東邦学園に対し、特に使途を指定しないものとして学園全体の教育活動に充てる一般寄付金としていただきました。大学・高校に応分に配布し、学生・生徒への日常の教育活動経費に充当させていただきます。

### ◆愛知東邦大学・東邦高等学校に対する寄付について(44,587千円)

- ・教育研究支援資金として、大学後援会や高校PTA、大学・高校の卒業生から寄付をいただき、愛知東邦大学・東邦高等学校の教育活動経費に充当させていただきました。
- ・大学・高校の施設設備を充実させるため、同窓会などから支援の寄付をいただきました。

### ◆周年事業に対する寄付について(524千円)

現在、学園で計画している「100周年事業計画」に盛り込まれる諸事業の実現のために使用させていただきます。

---

## 東邦学園100周年事業募金のお願い

東邦学園は2023年に創立100周年を迎えました。更なる100年に向けて更にはばたく意思を込めて、引き続き様々な100周年事業を実施してまいります。

各事業計画を進めるにあたり、学園としても資金を準備していますが、皆様方からもご寄付をお寄せいただきたくお願い申し上げる次第であります。

学生・生徒一人一人を見つめ、それぞれの可能性の芽を育むことを教育の柱に置き、混迷の時代を乗り越えてゆける人材を送り出す教育機関に対し、どうかお力添えをお願いいたします。

◇募金目標額 5億円

◇募金の主な使途

教育環境整備、施設設備の充実、学生・生徒の教育活動への支援

◇お申込期間・金額

【東邦学園創立100周年記念募金】

2021年11月から2026年3月まで

個人：1口5千円、法人：1口10万円

複数口のご協力をお願い致します(1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします)。

◇お手続き・申込方法

学校法人東邦学園の公式Webページにある「ご支援のお願い」の「寄付のお申し込み方法」にある専用入力フォームからお申し込み下さい。



募金に関する学園Webページ：<https://www.toho-gakuen.jp/donation>